令和3年度　大阪府立寝屋川支援学校　学校運営協議会議事録　令和3年11月25日(木)

(1)概要

日時	令和3年11月25日(木)	
場所	大阪府立寝屋川支援学校(視聴覚室)	
出席者	会長	辻　行雄(L's　College おおさか　校長)
	副会長	大槻　千春(大阪府立寝屋川支援学校 PTA 会長)
	委員	冨永　光昭(大阪教育大学)
	委員	山﨑　淳(寝屋川市立梅が丘小学校　校長)
	委員	猿橋　桂子(寝屋川市立あかつき･ひばり園　ひばり園園長)
	委員	上村　篤 (株式会社ゲオビジネスサポート　ストアコーディネーター)
	校長	福井　浩平
	准校長	阪本　友輝
	事務局	
	事務部長	石川　昌義
	教頭	吉村　晋治
	教頭	藤田　太朗(事務局長)

(2)議事

議　　題	
1　ICT を活用した授業の取組について 2　キャリア教育プログラムおよび PECS の活用について 3　進路指導の状況について 4　令和 3 年度学校経営計画及び学校評価について 5　その他	
協　議　内　容	
①ICT を活用した授業の取組について	
日置 指導教諭 辻会長 山﨑委員	資料の説明 興味深く見させてもらえた。ICT の取り組みとして、地域としてはどうか。 この部屋に入った時に、見たことがない機器があった。マイクやカメラなどの機器もすごく進んでいる。取り組み、動画なども進んでいる。寝屋川市も、ICT 機器を一人1台導入。今年1月から急遽取り組むことになった。しかし、子どもたちは習得が早い。1 年生もすぐに覚えて、今はなくては学習が進まないくらい。支援学校では、カメラ一つにしても、子どもたち一人ひとりの自立を促している。勉強になった。
辻会長 冨永委員	私も色々な支援学校を見ているが、寝屋川支援は着実に進んでいる。 非常に興味深い。一方、授業研究の観点から見ていくと、ICT を取り入れることで、他のものを使った時との違いを考える必要がある。また、授業全体として考えることや、ポストコロナのことも考えていく必要がある。支援学校の児童生徒は実際に触れていくことが必要だが、コロナでできなくなった。ICT はそれを補うことができる。また、コロナ禍で居住地校交流は難しかったが、ICT を使うことで実施が可能。コロナ後も、活用ができるのではと考えている。支援学校間同士の取り組みもできる。例えば、北海道と沖縄での交流が可能。防災の部分でも考えていける。ICT を使えば、居住地校交流として、離れた所でも一緒に防災を学ぶなどができる。
門田首席	以前本校に勤めていた教員が、現在新潟県の支援学校で勤務している。修学旅行

	ができないかも・・・という時に、たまたまだが交流ができることになった。1回では関係が深まらないので、複数回を考えている。今で 3 回目。動画を作成して交流もおこなった。次回は 1 月で、雪を見せてもらえる予定。
冨永委員	居住地校交流も実施できるかも。検討お願いしたい。
猿橋委員	なかなか学校行事ができない状況。ICT を活用して行事や授業を進めておられる。その取り組みを知ることができた。
上村委員	積極的に活用しているのが素晴らしい。時代はどんどん変化していく。社会がどんどん変わっていっているので、こういった取り組みが必要。実際取り組んで効果が出ている。進めていくことで、きっと先の何かにつながっていく。説明の中に「デジタルが不得手を補う」とあったが、課題もあると思う。マイナスに働く場合もあるのでは。そのサポートの検証ができればと思う。
大槻 副会長	地域では ICT 活用が進んでいる。地域で学んでいる子どもは、自宅に持ち帰って取り組んでいる。支援学校でも学校で取り組んでいると初めてわかった。持ち帰るとなると、私たちも勉強していかないと…と思う。
②キャリア教育プログラムおよび PECS の活用について	
門田首席	資料の説明・PECS 動画
冨永委員	キャリア教育と PECS とも、どちらも知っている。キャリア教育では、平成 20 年くらいから、ワークキャリアから、ライフキャリアに変わってきた。色んな学校でのキャリア教育に関して見てきている。重要な内容だと考えている。当初は、ワークキャリアと捉えている面があったが、これはライフキャリアの要素が強い。生活年齢と関連して進めていくことが大事。発達年齢で捉えがちだが、生活年齢で見ていく。また、教育活動全体を通して進めていき、小中高と積み上げていくもの。「つなぐ」がキーワード。仕事とつなぐ、地域とつなぐ、本人のニーズとつなぐなど。キャリア教育の観点の中に入れていく。PASS と関連させているところもある。子どもたちのニーズと関連づける。マトリクスで、小学部からつなげていけると違うと思う。キャリア教育をわかりやすくするために、「あいさつ」など具体化する必要がある。小学部段階だと特にそう思う。PECS についてですが、例えば構造化、どうしても個別のプログラムになっていく。社会の対応していく力、子どもたちの関係性、個別ではなく集団として捉えていく必要があると思っている。
辻会長	このキャリア教育プログラムはわかりやすい。視覚的に、保護者が見てもわかってもらいやすい。PECS は、いつから取り組んでいるか。
西田首席	Y 教員が大学時代から取り組んでいて、Y 教員の担当したクラスや学年で取り組んできた。本校に必要な力と思って学校経営計画に載せてもらい、今年度4月から取り組みを始めている。前期で20名ほど、後期で30名ほど取り組んでいる。先程「個別」とあったが、クラスなどの集団につながるように進めている。最初の部分が大事なので最初は取り出しなど個別で行っているが、集団につなげることを大事にしている。
辻会長	個別構造化とどう違うのか、また成果を聞かせてほしい。
③進路指導の状況について	
坂元進路指導主事	資料の説明
辻会長	素晴らしい取り組み。私も寝屋川支援学校の出身者として誇らしい。後ほど学校経営計画と関連して聞いていきたい。
④令和 3 年度学校経営計画及び学校評価について	
福井校長	学校経営計画について、現在の進捗状況報告。概ね予定通り進んでいる。今後、学校教育自己診断等で保護者様等の評価を入れていく。今回は、この学校経営計画と人材育成を関連させて進めていることを説明。
辻会長	進路指導の状況と含めて、委員お一人ずつお聞きしたい。

冨永委員	校長先生から貴重な話を聞けた。本質の部分。一人ひとりの教員の気持ちを吸い上げるのはむずかしい。でもこれは、吸い上げている。寝屋川の先生が力があり、それを全体につなげていく。キャリア教育で「つながる」と話したが、キャリア教育を中心につなげていく。実践的な部分が大事だが、寝屋川の取り組みを見せてもらえた。
山﨑委員	学校経営を見て、「すげーな」と思う。すごいよりもっと大きな驚き。キャッチフレーズ前回聞かせてもらったが、ヒアリングの様子をビデオで撮って、そのヒアリングの様子を開示している。そんなことは準備も含めて、言った内容がどうとかで難しいことなので驚く。先生方の取り組みは、進路、キャリア教育、最終子どもたちが大人になってどうしていくかと、先生方の愛情を感じる。動画の画像からも愛情を感じる。驚き。
猿橋委員	学校経営計画を改めて聞かせてもらい、小中高と大きな学校なのに考えられた取り組み。「就学前との取り組み」を取り上げてもらっている。PECS だけでなく、療育として実践交流ができれば。進路の説明の中に、関係機関と連携して進めておられるものもあった。中学部では、中学部の進路が多様化している。取り組みも多様化しているのか、また聞かせて欲しい。
上村委員	正直、すごいなと思った。メモもが追いつかないくらい大事な話が多かった。進路では、中学部のあたりで、保護者が事前にわかるように取り組まれている。企業として思う部分は、学校と外と繋がる大事な職場体験がたくさんあり、就労につながっていると思う。ただ、写真で複数の生徒で写っているものがあったが、1 人で職場体験に行くとまた違うと思う。また、1 箇所目での進路決定は、事前に確認して上手く進めている部分であるが、定着を考えると複数見ておくことも大事。定着のため取り組みが必要。学校経営計画に関しては、皆さんと同じ。評価では、実際に行った数などのアウトプットだけでなく、自分たちがやってみてどう変化があったかのアウトカムも考えている。先生方が生徒に教えていく時、先生に気持ちがないと進まない。生徒にも良い影響を与える。
大槻 副会長	進路希望については、生活介護を選択されている方が少ない。選択の幅が広がっている。職業体験を通して、働く良さも感じることができる。保護者の施設見学は多いが、関心の高い人中心。他の方にも関心を持ってもらうことが課題。学校経営計画はわかりやすい。1つ、最近学校の中に、先生なのか、わからな人がいる。サポーターの方が入っていると聞いているが、挨拶をしても返してくださらない。先生方と同じ気持ちでいてほしい。挨拶をしても知らん顔をして行ってしまう人もいるので、そうすると気持ちが萎えそうになる。よろしくお願いしたい。
辻会長	保護者代表としてもお話を聞かせてもらった。本日のまとめとしては、取り組みは、現在進行形として進んでいる。引き続きお願いしたい。
⑤その他	
阪本 准校長	本日話の中にたくさん挙がった「つなぐ」を大事に、進めていきたいと考えている。